

すみれ通信 46号

すみれ通信は、医療・介護に携わる方に発信しています



令和元年 2019年4月1日

〒 251-0032
藤沢市片瀬339-1
藤沢市医師会館
在宅医療支援センター
☎ 0466-41-9980
Fax 0466-41-9981
メールアドレス fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp



4月

第5回「在宅医療・介護連携」多職種研修会 「在宅におけるACPの実践」

日時：平成31年3月1日 19:30~21:00

講師：神奈川県医師会在宅医療担当理事
久保田 毅 医師

出席者：132名

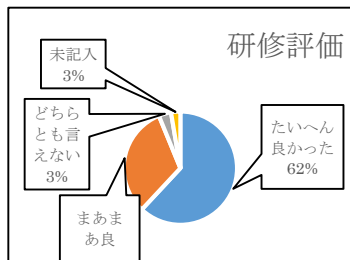
参加者：医師16名・歯科医師3名・薬剤師11名・看護職33名・ケアマネジャー32名
ソーシャルワーカー7名・社会福祉士8名・介護職7名・事務職2名・PT/OT2名・鍼灸師2名・栄養士1名
その他の職種4名・藤沢市4名



アンケート回収数 113名（回収率85.6%）

アンケート記載の抜粋

- 具体的な訪問診療でのACPが現場目線でも参考になりました。
- 藤沢市外の医師だけにフェア且つ、フラットなお話しをして頂けたように思います。「マニュアルだけでなく、個々の話し合い」というキッパリしたお言葉、その通りだと思いました。
- 生まれたからには致死率100%。誰にも平等に訪れる死をタブーにしないという意味においてACPは有効だと思います。どう生きてどう死ぬか、自分の人生は自分のもの、元気なうちから人生会議をすることを進めていきたいと思っています。
- 在宅医療の医師は家族や施設職員との関わりも密にあるので、思いやりもあって体力も必要で、大変だなと感じた。在宅医療の医師を増やして欲しいと思う。
- 地域で連携して医療や介護を行なうことは誰にとってもメリットが大きいように思えた。
- いつも沢山の方が参加されてすごいなと思いました。
- 地域の方の「生命」についての考え、「人間は死ぬものだ」とは思っていない人が多いような気がする。まだまだ自分は良いと思って考えられていない。何度も命については話し合い必要だと思う。



・初めてこのような研修に参加しました。在宅の医師がどのように考え、どのように動いていらっしゃるかが分かりました。

★平成30年度はこの研修会で終了しました。
平成31年度も計画していますのでぜひご参加ください。

居宅介護支援事業所109カ所に「退院支援について」アンケートのご協力をお願いしました。71カ所からご回答がありましたので、後日ご報告させていただきます。



【最近ちょっと心に残った言葉】

心が強い人はいません。どうかわすかが大事。辛い事を癒すのは、「3つのt」です。

- ・涙を流す「tear」
- ・話をする「talk」
- ・時間をかける「time」。



時間が解決するものではありません。時間をかけて乗り越えていくのです。



大事な人が亡くなった時、話を聴いてくれて一緒に涙を流してくれた人が身近にいた事で、随分気持ちが救われた経験があります。

ホスピタリティーワン湘南藤沢訪問看護ステーション 看護師 高丸 慶

私は幼少期に祖父の介護をする母の姿を見て、在宅介護の大変さを感じ、祖父を看取った後の母の状態をみて遺族ケアの必要性を感じました。男も入れる看護学部が出来たということで運命を感じ、2001年に藤沢市にある看護学部へ進学しました。

介護保険が出来たばかりの時代でしたが、介護保険を考えた教授や、湘南藤沢エリアで活躍する先駆者の看護師たちと出会う事が出来たのが私の原点です。

私の師匠である久常節子先生（前日本看護協会会長）が、『看護には4つのフェーズがある。「患者さんを見る、患者を取り巻く家族を見る、家族を取り巻く地域を見る、地域を取り巻く国を見る」である。』と教えてもらいました。訪問看護は患者さんだけでなく、家族も地域も見る看護の最先端であると感じております。まだ出来たばかりの事業所で私自身の若輩者ですが、地域の皆様と支え合っ必要とされる看護を提供していきたいと思っています。

